

19 福祉

< 目 次 >

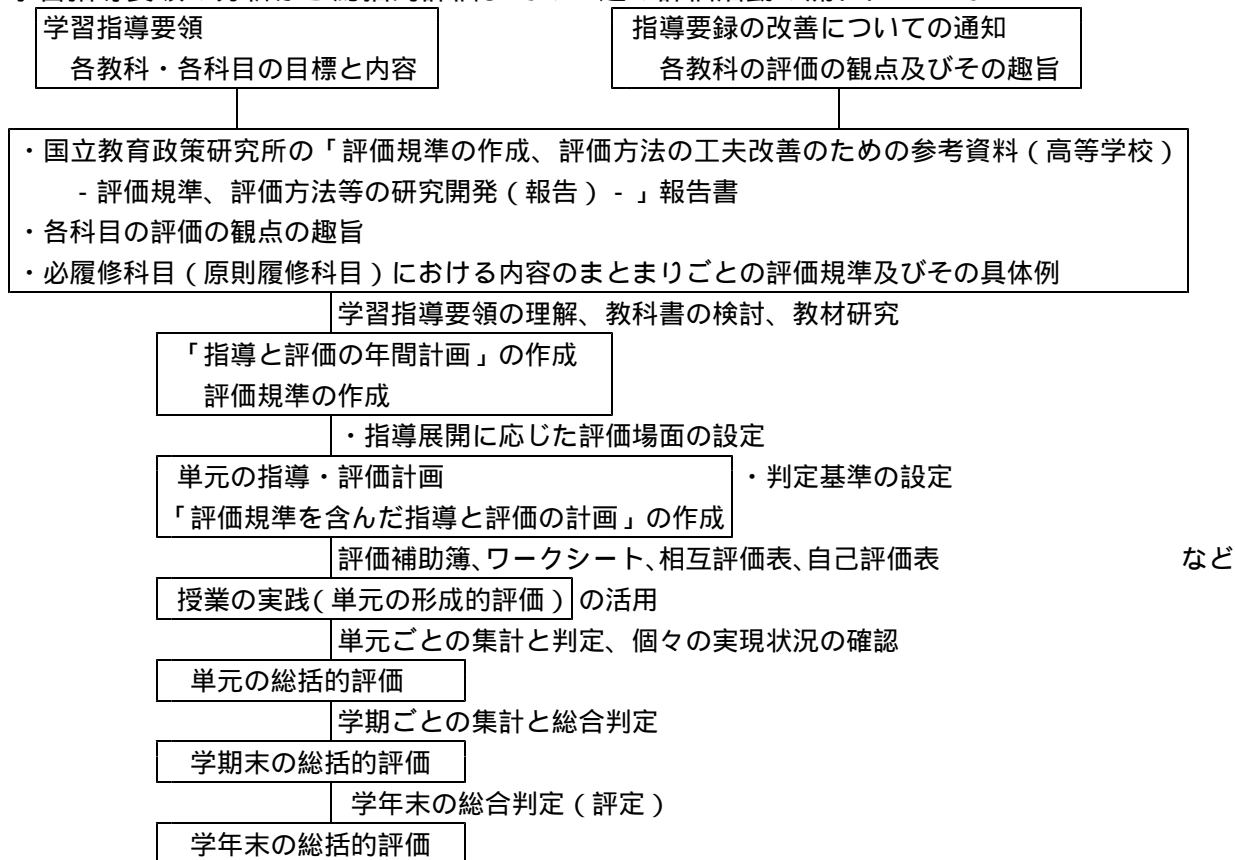
- 1 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」
P 1 ~ 2

- 2 「指導と評価の年間計画」
社会福祉基礎 P 3

- 3 「单元ごとの指導と評価の計画」
社会福祉基礎 P 4 ~ 7
 - 科目の目標
 - 科目の評価の観点及びその趣旨
 - 内容のまとめりごと
 - 目標
 - 評価規準
 - 单元ごと
 - 目標
 - 評価規準
 - 各授業時間ごとの主な内容
 - 授業指導案例

1 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き

1 学習指導要領の分析から総括的評価までの一連の評価活動の流れについて



(1) 「指導と評価の年間計画」について

これは(2)の「評価規準を含んだ指導と評価の計画」の全単元について、その概要を記述したものである。

生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び児童生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して、次の特色をもった年間計画となっている。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、授業内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まったが、この計画は、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイントも含めて記述してある。

評価の方法を記述し、評価から評定への道筋が明確でありかつ説得力をもつように記述してある。

(2) 「評価規準を含んだ指導と評価の計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準を含んだ指導と評価の計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の特色をもつ。

科目全体の評価規準を示した。

「単元ごとの評価規準」及び単元の「各授業時間ごと主な内容」を示した。

各授業時間ごとの主な内容には、「主な学習内容」と「主な学習活動・具体的評価規準」及び「評価の方法・指導」を示した。

「主な学習活動・具体的評価規準」は、上記の「指導と評価の年間計画」の「主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」に反映されていなければならない。

「主な学習活動・具体的評価規準」は、上記の「単元ごとの評価規準」の4観点を具体化したものでなければならない。

単元ごとの評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
A	B	C	D

各授業時間ごとの主な内容

1 項目名 (授業名)			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1 時間 目	・ 学習内容の主な項目を記載	・ 上記Aの具体的な内容【関】 ・ 上記Bの具体的な内容【思】 評価の観点は次のように略記 【関心・意欲・態度】 = 【関】 【思考・判断】 = 【思】 【技能・表現】 = 【技】 【知識・理解】 = 【知】	・ 評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

(3) 「評価規準の作成の手引き」

評価規準については、次の内容構成で作成する。

以下に記述されている、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」は国立教育政策研究所のホームページに掲載されている。

- ・ 科目の目標 ... 学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・ 科目の評価の観点及びその趣旨
 - ... 学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成
 - 具体的には、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に記載されたもの。
- ・ 内容のまとまりごとの評価規準... 内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準
 - 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に記載されたもの
 - 社会福祉基礎においては、学習指導要領の内容の(1)や(2)などの大項目を内容のまとまりとしている。
- ・ 単元の目標 ... 実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標
 - 学習指導要領の項目ごとのねらいを基本に記載
- ・ 単元の評価規準... 単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。
 - 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に「内容のまとまりごと」の「評価規準の具体例」として記載されたものを基本に記載
- ・ 各授業時間ごとの具体的評価規準と方法
 - ... 各授業時間ごとに、単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの

2 指導と評価の年間計画（2単位） （第1学年用）

目標	社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。
【学習指導要領】	社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 一般的なライフサイクルをイメージさせ、その過程ごとにどのような社会福祉や社会保障とのかかわりのある生活課題があるのかを考えさせるよう、工夫する。 社会福祉が一人ひとりにとって身近な問題であることを意識化させ、生活課題として「現実性」のあるものであることを認識させるよう、工夫する。 単に知識の伝達にならないよう、社会人講師の講話や産業現場等の見学、就業体験、調査などを積極的に取り入れて、具体的・体験的に理解させる。また、見学、就業体験、調査などの成果を発表させることを通して社会福祉への関心を高めさせる。 教員自身の、福祉観、人生観、障害観などを見直した上で指導にあたる。 職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを学習の導入とまとめに立てさせることなどを通して、専門科目への学習に向けての意欲を高めるとともに、社会福祉の向上を図る能力と積極的な態度を育てる。
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	

月	単元名	使用教科書項目（中央法規 社会福祉基礎）	時	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4月	第1章 わたしたちの暮らしと社会福祉	第1節 社会構造の変容と社会福祉 1 家族・地域の扶助機能と社会福祉 2 生活構造の変容 3 家族形態の変容 4 生活の変容と社会福祉制度	6	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉基礎を学ぶ目的を理解する。福祉に関する意識や体験のアンケートを実施する。 生活構造や家族形態などがどのように変化してきているのかを理解するとともに、これらの変化が社会福祉に及ぼす影響を理解している。 	アンケート結果 学習プリント 行動観察 福祉施設の見学レポート
5月		第2節 少子・高齢社会と社会福祉 1 平均寿命の延びと急速な高齢化 2 少子社会の進展とその原因 第3節 ライフサイクルと社会福祉 1 ライフサイクルの変化	5 2	<ul style="list-style-type: none"> 自分及び家族のライフサイクルと社会福祉のつながりを考え、これからのライフサイクルにあわせてどんな福祉ニーズが生じるか考えることができる。 身近な事例から、生活課題について考えることができる。 地域の身近な福祉の問題について、福祉施設の見学や聞き取り調査などの方法で調べ、レポートする。 	聞き取り調査レポート 事例研究レポート
6月	第2章 社会福祉の考え方と目的	第1節 社会福祉の考え方とその体系 1 「福祉」の語源 2 法制度としての社会福祉の位置 3 とともに生きる社会とボランティア活動 4 社会福祉の用語と「社会サービス」 第2節 社会福祉の目的と自立生活支援 1 社会福祉関係法にみる社会福祉の目的 2 社会福祉における自立の概念 第3節 自立生活支援と社会福祉サービスの考え方 1 社会福祉サービスの考え方と在宅福祉サービス 2 自立生活支援の方法とサービス利用者 3 自立生活支援の方法と視点	3 3 2	<ul style="list-style-type: none"> 「社会福祉」のイメージと、身近な「社会福祉」を取り上げることによって、社会福祉の理念を理解している。 社会福祉の意義を制度的な面だけでなく、歴史的・社会的な面から理解している。 生活する中で、どんな助けが必要か、ライフサイクルと社会保障の関係について考えている。 自立生活支援の視点から、基本的な社会福祉サービスを理解している。 社会福祉制度の概要を理解している。 権利宣言の整理をし、言葉の理解だけでなく、社会福祉施設の見学や、体験学習、調査などを通じ、生徒自身が権利について話し合うことができる。 いろいろなケースでの「最低限度の生活」について、意見を出し合い、考えている。 ノーマライゼーションの具現化について考え、自立について理解している。 授業評価を実施する。 	行動観察 学習プリント 事例研究 レポート
7月	第3章 欧米における社会福祉の歴史	第1節 社会福祉制度の起こりとイギリスの歴史	3	<ul style="list-style-type: none"> イギリスにおける福祉国家形成の過程を理解している。 「新救貧法」に見られる「劣等処遇の原則」について、貧困者の場合とそうでない場合両方の立場で考えている。 アメリカの社会福祉の発展の経緯について理解している。また、なぜ、このような形で発展していったのかを考えている。 	行動観察 学習プリント 事例研究 調べ学習レポート
9月		第2節 アメリカの社会福祉の発展 第3節 ノーマライゼーション指導の生成、発展	3 1	<ul style="list-style-type: none"> 北欧のノーマライゼーション思想の発展について理解し、この考え方に対する自分の意見や発展させるためにできる身近なことを考えている。 	
10月	第4章 日本における社会福祉の歴史	第1節 戦前の社会福祉の発展 1 近代社会以前の営み 2 明治以降の社会福祉の発展 前期期末考査 テスト返却	2 1	<ul style="list-style-type: none"> 現在の社会福祉と欧米における社会福祉の発展がどのように結びついているかを考え理解している。 日本における社会福祉の歴史的展開について、戦前、戦後の社会福祉のしくみと発展を中心に理解している。 社会福祉の発展に影響した社会福祉の実践家とその考え方、活動内容について調べ理解している。 外国人への出身国の福祉の実態に関するインタビューなどを通して、社会福祉の歴史的背景を理解している。 	
11月	第5章 社会福祉分野の現状と課題	第1節 公的扶助 第2節 児童家庭福祉 第3節 高齢者福祉 第4節 障害者福祉 第5節 地域福祉 後期中間考査 テスト返却 授業評価	3 4 4 3 5 1	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の各分野が生まれてきた社会的背景と理念について理解している。 関連する事件の新聞記事やモデル家族の事例などから、具体的に現状や制度等を知り、問題意識をもって考えている。 各分野の代表的な施策や課題について理解している。 地域の施設福祉サービス・在宅福祉サービスについて、実態調査や関連施設の見学、社会人講師などによって、実状に即した地域理解をしている。 利用者ごとの福祉サービス関連図を作成し発表する。 授業評価を実施する。 	行動観察 学習プリント 福祉サービス関連図 レポート
12月	第6章 社会福祉の担い手と福祉社会への展望	第1節 社会福祉サービスにかかわる専門職制度と資格	5	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな社会福祉従事者と、その役割について理解している。 福祉社会をつくりあげていくために、相互扶助の精神と国民一人の意識改革の重要性について理解している。 いろいろな事例を通して、専門従事者としての適切な対応について考えることができる。 自分たちができる身近なボランティア活動について考え提言する。 街の中にどんな「バリアフリー」の工夫があるか調べプレゼンテーションで発表する。 専門職制度と資格について調べ学習し、今後の学習プランを立てる。 	行動観察 学習プリント 調べ学習レポート 学習プラン レポート
1月		第2節 専門従事者に必要な資質と技術	2		
2月		第3節 ボランティアの考え方と歴史的展開	3		
3月		第4節 福祉国家 から 福祉社会 へ 社会福祉基礎の授業を終えて 後期期末考査	2 2 1		
合計時間数			70		

3 単元ごとの指導と評価の計画

1 科目の目標

社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
社会福祉に対する関心を持ち、福祉社会に向けた課題に意欲的に取り組むとともに、社会福祉に関する幅広い視野と福祉観や社会福祉の向上を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。	日常生活から派生する社会福祉に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、社会福祉の意義や役割について適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	社会福祉に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、実習・調査・研究等で考察した過程や結果を適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	現代社会における社会構造の変容や特色について把握し、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の理念について、その意義や役割を理解している。

3 「(4)「社会福祉分野の現状と課題」(内容のまとめりごと)の評価規準

内容のまとめりごとの目標

ア 公的扶助

生活保護制度が生まれてきた社会的背景、理念、現状について理解させるとともに、公的扶助の課題について考えさせる。

イ 児童家庭福祉

児童家庭福祉関係法が生まれてきた社会的背景、理念、代表的な社会福祉施策の概要と現状について理解させるとともに、児童家庭福祉の課題について考えさせる。

ウ 高齢者・障害者福祉

高齢者・障害者福祉関係法が生まれてきた社会的背景、理念、代表的な社会福祉施策の概要と現状について理解させるとともに、高齢者・障害者福祉の課題について考えさせる。

エ 地域福祉

地域に働きかける援助としての地域福祉について、在宅福祉や施設福祉のサービスや社会福祉施設、関係機関を取り上げ、それらを統合して、その地域の福祉力を高める体系の一つであることを理解させるとともに、地域福祉の課題について考えさせる。また、地域福祉の推進を図るための福祉関連資源とその活用についても理解させる。

内容のまとめりごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
社会福祉の各分野に対する関心を持ち、各分野の現状と課題を意欲的に追究する態度を身に付けている。	社会福祉の各分野の概要について自ら思考を深め、各分野の現状と課題を多角的・多面的に考察している。	社会福祉の各分野に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、実習・調査・研究等で考察した過程や結果をまとめ、図表化したり、発表や討論したりしている。	社会福祉の各分野の概要について把握し、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、各分野の社会的背景と理念、現状と課題を具体的に理解している。

< 第5章 社会福祉分野の現状と課題 > 第5節 地域福祉

単元の目標

1. 地域に働きかける援助としての地域福祉について、在宅福祉や施設福祉のサービスや社会福祉施設、関係機関などを総合して、その地域の福祉力を高める体系の一つであることを理解させるとともに、地域福祉の課題について考えさせる。
2. 地域福祉の推進を図るための様々な福祉関連資源とその活用について理解させる。

単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
・在宅福祉や施設福祉のサービスや社会福祉施設、関係機関、福祉関連資源について関心を持ち、地域福祉の現状、代表的な施策と課題について意欲的に追究する態度を身に付けている。	・地域福祉の推進を図るための様々な福祉関連資源とその活用について自ら思考を深め、地域福祉の現状と課題について多面的・多角的に考察している。	・地域福祉に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、実習・調査・研究等で考察した過程や結果をまとめ、図表化したり、発表や討論したりしている。	・在宅福祉や施設福祉のサービス、社会福祉施設、関係機関、福祉関連資源と課題など地域福祉に関して理解している。

授業時間ごとの主な内容

1 社会福祉法と地域福祉の推進			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的評価規準	評価の方法・指導
第1時間目	地域福祉とは 社会福祉法の概要(改正のポイント)	地域福祉の推進を位置付けた社会福祉法の概要について把握し、代表的な施策と課題などを具体的に理解している。【知】	学習プリント ペーパーテスト
2 地域福祉の推進体制			
第2時間目	社会福祉協議会 共同募金 民生委員	社会福祉協議会の役割や、共同募金、民生委員など地域福祉の推進体制について、ペーパーサートを活用して説明することができる。【技】	学習プリント ペーパーサート
3 地域福祉と施設福祉・在宅福祉の考え方			
第3・4・5時間目	地域のなかの施設福祉・在宅福祉 社会福祉施設の福祉サービス 在宅福祉サービスの考え方	在宅福祉や施設福祉のサービス、社会福祉施設、関係機関、福祉関連資源と課題など地域福祉に関して理解している。【知】 地域福祉の推進を図るための様々な福祉関連資源とその活用について自ら思考を深め、地域福祉の現状と課題について多面的・多角的に考察している。【思】 在宅福祉や施設福祉のサービス、社会福祉施設、関係機関、福祉関連資源の役割と関連性、活用について、利用者ごとに関連図に表現したり、発表したりしている。【技】 利用者別の関連図を統合化、総合化してとらえ、地域福祉の課題について追究する態度を身に付けている。【関】	調べ学習の取組観察 調べ学習の情報収集力や整理力 学習プリント(地域福祉の現状と課題の把握状況) 関連図 発表 ペーパーテスト

社会福祉基礎

< 授業指導案例 >

教科(科目)	社会福祉基礎	単元名	第5節 地域福祉		
本時主題	3 地域福祉と施設福祉・在宅福祉の考え方 (3・4・5時間目/5時)				
本時の目標	地域福祉について、在宅福祉や施設福祉のいろいろなサービスや社会福祉施設、関連機関などを総合して、その地域の福祉力を高める体系の一つであることを理解するとともに、地域福祉の課題や地域福祉の推進を図るための様々な福祉関連資源とその活用について考える。				
過程	指導の内容	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
導入	・前時の学習の確認	前時学習した地域福祉の推進体制を確認する。		・前時使用したペーパーシートを見せながら、地域福祉の推進体制を説明。正解を誘導。	
5分	・本時の目標の確認	地域福祉の現状を具体的に理解するため、地域のなかの施設福祉サービス・在宅福祉サービスについて調べ、それぞれの役割と関連性、活用について関連図に表現すること、今後の課題について発表することを確認する。			
展開	・住地域の資料収集 ・地域福祉についての調べ学習	収集してきた住地域の施設福祉サービスや在宅福祉サービスのパンフレット、介護保険制度や社会福祉8法の資料、インターネットの資料について確認する。	グループで調査対象(公的扶助・児童・高齢者・障害者)が全て揃うようメンバーに割り振り、自分の分担対象を確認する。	・グループは同じ住地域のもので構成。 ・生徒が入手しにくい資料については事前に用意しておく。 ・グループ内で調査対象全てが揃うよう分担させる。	
45分		資料の収集方法の確認や資料の活用について教師よりアドバイスを受けながら、地域のなかの施設福祉サービス・在宅福祉サービスについて多角的・多面的に調べ学習を進める。		(内容) ・地域福祉の推進を図るための様々な福祉関連資源とその活用について自ら思考を深め、グループのテーマに沿って、多面的・多角的に調べ考察している。【思】	
展開	・グループ単位で中間発表、今後の学習の方向付け ・グループのまとめ	調べ学習の途中経過を発表し合い、自分の調べ学習の方向付けをする。		・在宅福祉や施設福祉のサービス、社会福祉施設、関係機関、福祉関連資源の役割と関連性、活用について、利用者ごとに関連図に表現したり、発表したりしている。【技】 (方法) 学習プリント、関連図	
100分		メンバーが利用者別に行った調べ学習の内容を一つの関連図に統合し、総合化する。住地域の地域福祉の全体像を確認し課題をまとめる。			
展開	・発表の確認 ・各グループ発表	グループ発表の方法と役割分担を確認する。	住地域別の地域福祉の現状と課題について、利用者別の関連図を用いて発表する。発表を聞いて各住地域ごとの特色をまとめる。	(内容) ・利用者別の関連図を統合化、総合化してとらえ、地域福祉の課題について追究する態度を身に付けている。【関】 (方法) 発表の姿勢、情報収集力、整理力	
130分					
まとめ	・本時のまとめ	施設福祉サービスと在宅福祉サービスの関連はどうあるべきだと考えるか。		・本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。	
150分		地域自立生活支援サービスとして、施設福祉サービスを細かく分解して、地域で必要と求めに応じて利用できるように考えていく必要がある、各種のサービスが総合的に提供されることが必要であることを理解する。		(内容) ・在宅福祉や施設福祉のサービス、社会福祉施設、関係機関、福祉関連資源と課題など地域福祉に関して理解している。【知】 (方法) ペーパーテスト(定期考査)で確認	

社会福祉基礎

<参考資料1> 事例レポート例

「 さんの場合」 レポート						
1年 組 番	氏名 _____					
1 事例	さんの場合 --- 事例文 ----- ----- ----- -----					
Q 1	今後、 さんの家族にはどんな生活上の課題が生じるか。 ~~~~~ ~~~~~ ~~~~~					
Q 2	さんの一家を通して考えられる現代社会の諸問題はどんなことか。 ~~~~~ ~~~~~ ~~~~~					
Q 3	あなたの身のまわりや地域にも起こりうる生活上の課題はどんなことか。 ~~~~~ ~~~~~ ~~~~~					
評価	<table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; text-align: center;">1</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; text-align: center;">2</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; text-align: center;">3</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; text-align: center;">4</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; text-align: center;">5</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5
1	2	3	4	5		

<参考資料2> 施設実習自己評価例

施設実習自己評価		_____	_____	_____	_____	_____	_____
施設・機関名							
実習期間	自	月	日	出席日数	欠席日数	遅刻回数	早退回数
	至	月	日	日	日	日	日
評価項目						評 価	
明るく前向きに行動できたか						5	4
挨拶（声の大きさ）言葉づかいは適切であったか						5	4
与えられたことは責任をもって行ったか						5	4
職員や実習生と協力できたか						5	4
指導、助言の受け方は適切だったか						5	4
毎日の目標に従い実習を行ったか						5	4
積極的に利用者と関わろうとしたか						5	4
利用者とのよい関わりを持てたか						5	4
介護技術をしっかり習得できたか						5	4
実習記録をしっかりと書き、きちんと提出したか						5	4
全体的に満足できる実習であったか						5	4
全体的評価							
全体的評価については、実習前との気持ちの変化・介護技術面での向上したことなどを文章化し、自己評価する。							